広報

わかさ

Public-relations Wakasa

今年も暑い 夏 が来た!!

（中央保育所　プール遊び）

8
2012
No.88

Wakasa of the clear water

若さの源

福井県は、古くから「越山若水」と呼ばれるように、越前（嶺北）は緑豊かな山々、そして若狭（嶺南）は美しい水に恵まれた土地柄です。

その名のとおり、若狭町には、国定公園の若狭湾をはじめ、ラムサール条約登録湿地の名勝「三方五湖」や一級河川の中では近畿一の清流「北川」があります。

今回は、この若狭湾などに流れ込む水の原点を「若さの源」として紹介します。

若狭町の水は、町の面積の半分以上を占める山々からの恵みです。天からもたらされた雨水や雪解け水は、山の地中深くにしみ込み、この地球が何億年もかけて積み上げた地層という自然のフィルターを通ることで、きれいにろ過され、かつミネラルを多く含む名水となります。

その水が湧き出て滝や渓流となっているのが、名水百選にも選ばれている瓜割の滝や三方石観世音の観音霊水です。

また、神子の古井戸や平成の名水百選に選ばれている熊川宿の前川は、生活用水として人とともに生きてきた名水の代表と言えるでしょう。

瓜割の滝（天徳寺）

名水①

岩肌が赤い藻は、きれいな水の証し

名水百選に選ばれている瓜割の滝は、天徳寺境内の奥にある岩間からこんこんと湧き出る名水です。

その名のとおり、瓜も割れるほどに冷たく、一年を通じて水温が変わらないこの滝は、泰澄大師によって開かれたと云われています。

滝の水が流れる岩肌は、赤く染まっています。これはヒルデンブリンチアリブラリスと呼ばれる紅藻類で、一定した水温ときれいな水質をもつ場所に生息する藻です。

この藻は、全国でも珍しい藻の種類でもあり、この滝の水がきれいな証拠となっています。

公園入口にある名水の里の店員の方に話を伺うと、多くの方が水を汲みに来られる。夏場はこの水で麦茶にするとおいしいとのことでした。

岩肌が紅藻類で赤く染まる

不動の滝（梅ヶ原）

名水②

父母と子、そして不動明王が見守る滝

梅ヶ原集落にある不動の滝は、落差約 30m の力強い滝です。

かつては、周辺に一大勢力を築いた寺院「竜泉寺」があり、別名で「竜泉寺の滝」とも呼ばれているそうです。

滝のふもとには、竜泉寺の摂社として建立された不動明王が祀られていて、除難厄除けの不動として信仰され、多くの祈願者が訪れるようです。

また、滝のそばには、「子育ての杉」と呼ばれる 1 本の根から 3 本の幹が生えている神木があります。

立て札によると「一根三幹の神木。父母の双幹もって子幹を育み、子供の健全なる成長を祈る」とあり、滝のそばで、2 本の木が 1 本の木を育てているように見えます。

滝のふもとに祀られている不動明王

前川（熊川）

名水③

この川が熊川の自慢

熊川には、鯖街道の宿場町として栄えた熊川宿があり、この歴史的景観で欠かせないのが、宿場内を流れる前川です。

水流を利用した芋の皮をむく「イモ車」が設置されているなど、生活に密着した生活用水として利用されています。

生まれてから熊川に住む中村さんに話を伺うと、夏でも速い水流のおかげで、街道は心地よい涼しい風が流れ込むということです。また、地域の方々の保全活動により、最近ホタルも飛び交うようになったと昔を懐かしむように「この川が熊川の自慢だ」と喜んでいました。

前川は、地域住民による水環境の保全が評価されて、平成の名水百選に選ばれています。

中村 尚子さん（熊川）

神子の古井戸（神子）

名水④

底からウナギが現れると大地震が起こる？

神子集落の山手に設置されている共同利用の井戸。蛭子町、中町、北町と分かれている区域にそれぞれ1か所ずつある井戸は、昔は生活用水として使われていました。現在は、上水道の普及により、あまり利用されなくなりましたが、洗い物や野菜を冷やす場所として利用されています。

通りがかった蛭子谷さんに話を伺うと、昔から夏にスイカを冷やしたり、みんなで洗濯したり、風呂の水を汲んだりと地域の人たちが交流する井戸端会議の場所だったようです。また、言い伝えでは、井戸の底には主の大ウナギが住んでいて、大ウナギが底から上がってくると大地震が起こると伝えられているようです。

蛭子谷 絹江さん（神子）

不動の滝（武生）

名水⑤

水を飲むと母乳が出るようになる？

武生集落を流れる武生川の上流に、不動の滝があります。

滝は、全面が一枚岩で形成されていて、上部の夫婦杉の脇から流れる約20mの落差で迫力があり、梅ヶ原の不動の滝と同じく滝の傍らには不動明王が祀られています。

この滝は、渇水のときも枯れることが無く集落の人々からたいへん崇められています。毎年8月28日には悪を除けるための「不動尊祭」が行われ、多くの人が祈願に訪れています。

また、滝の脇の腰の高さぐらいのところに小さな窪みがあり、滝の水が流れ込んでいます。

その窪みに溜まる滝の水を飲むと母乳が出るようになると伝えられるなど、集落の人々の信仰が厚い滝です。

滝の水が流れ込む小さな窪み

観音霊水（三方）

名水⑥

清涼感あふれるご利益の水

三方石観世音は、北陸三十三か所の特別霊場となっていて、観音霊水と呼ばれる清涼な水が手水場に引かれています。

この水は、本堂から林道を少し登ったところにある通称「梨の木」から引いてあります。

梨の木は、昔、山作業の際の休憩した場と云われています。

三方石観世音社務所の鳥居さんに話を伺うと、観音霊水は夏でも枯れることの無いひんやりと冷たい水で、参拝者の喉を潤してくれている癒しの水です。

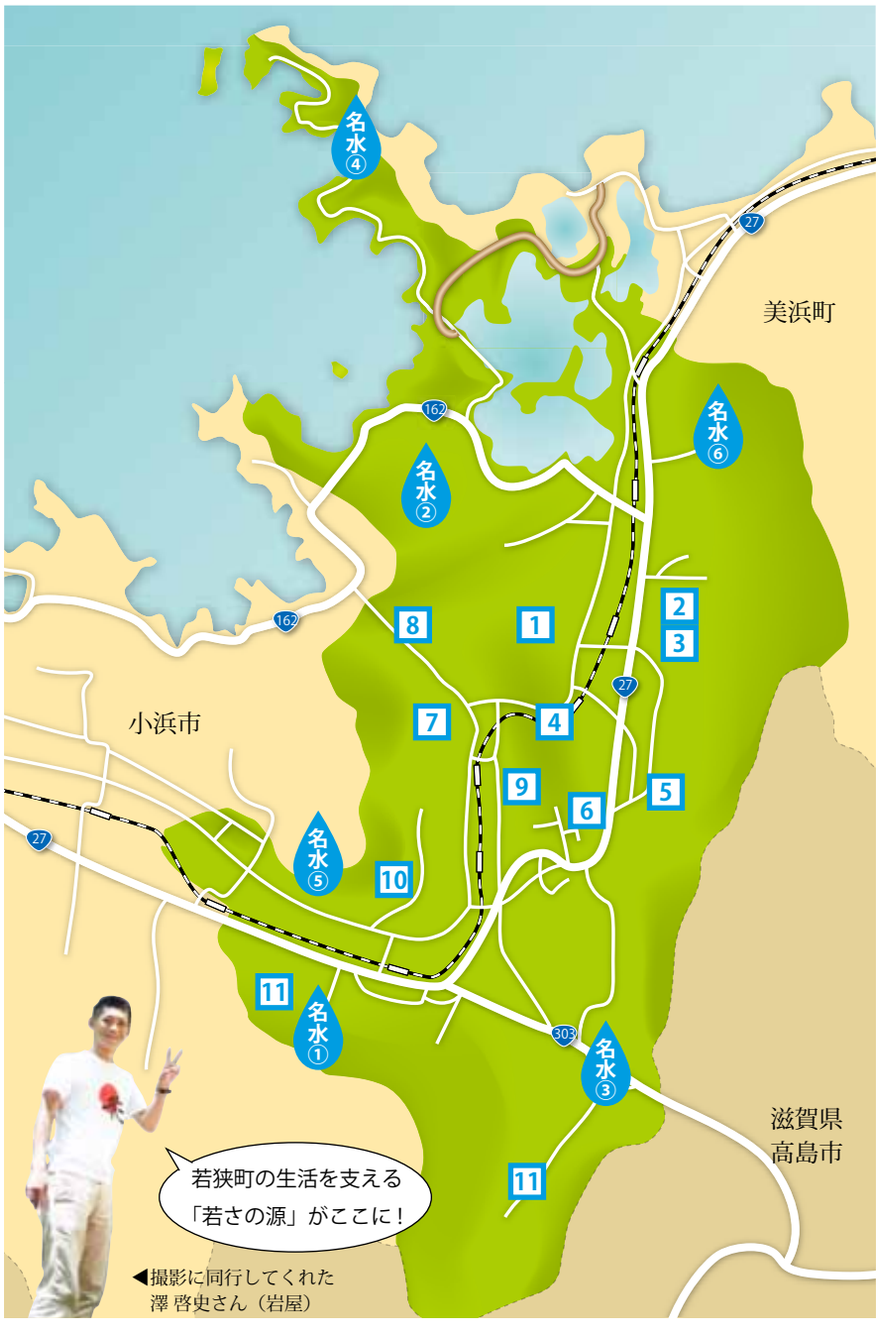
また、ふくいのおいしい水にも選ばれていて、石観世音のご利益にあやかるために多くの方々が水を汲みに訪れるそうです。

鳥居 昭彦さん（三方）

若さの源 ＭＡＰ

今回紹介した名水ポイントのほかにも、まだまだある“若さの源”の一部をＭＡＰで紹介します。

No.	若さの源（その他）	集落名
①	志伊良の湧水	佐　古
②	青池谷	藤　井
	しょうずしりの地下水	藤　井
	向陽寺谷（串小川）	藤　井
③	不動尊の滝	相　田
④	湯波川の湧水	岩　屋
⑤	八幡川の湧水	能登野
⑥	白屋のため池	白　屋
⑦	弘法の滝	上黒田
⑧	海士坂滝	海士坂
⑨	前川の明庵水	南
	宮の森の湧水	南
⑩	滝山不動の滝	堤
⑪	河内川の湧水	河　内



「若さの源」を次世代へ

いくら豊かな水源があったとしても、わたしたち人間をはじめとする生き物は、この資源を使って生活していることを忘れてはいけません。

毎年８月１日を「水の日」に、また水の日を初日とした１週間が「水の週間」に定められています。水の日とは、水の大切さや水資源開発の重要性、また限りある貴重な資源であることについて関心を高め、理解を深める日です。

この機会に、水のありがたさを今一度見つめ直し、水環境の保全などに取り組んで、この豊かな水の恵みを、いつまでもきれいな「若さの源」として次世代へとつなげていきましょう。

（注　意）①場所によっては足場の悪い所もあります。転倒などには十分気をつけてください。
②水を汲む際には、各所の規定に従っていただくなどマナーを守りましょう。

資料参照：ホームページ「若狭名水の旅」

まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写っていましたらご連絡ください。写真をさしあげます。（総務課 TEL45-9109）

▲ひと粒ひと粒丁寧に確認して箱へ詰める関係者

ひと粒ひと粒丁寧に（6/20）

皇室へ献上する福井梅の選別作業が、若狭町梅加工体験施設で行われました。

福井梅は、三笠宮家と常陸宮家へと献上されており、三笠宮家を通じて天皇家へも届けられています。

今回献上される梅は、梅干しに適した品種「紅映（べにさし）」の直径4cmを超える青梅で、ＪＡ敦賀美方の職員と町の職員が、大粒の最高品質の青梅をひと粒ひと粒丁寧に選別しました。

献上する梅は90kgで、森下町長らが翌日に上京し、三笠宮家と常陸宮家へ献上しました。

菜種油でリサイクル（6/20）

瓜生小学校3年生の児童26人が、菜種油づくりを体験しました。

昨年11月にかみなか農楽舎が約30アールの安賀里の畑に菜の花の種をまき、児童らは鎌を使って菜の花の刈り取りも体験をしました。

児童は、刈り取った菜の花をシートの上で竹棒で叩いたり、ふるいなどを使って種を集めました。

集めた種を搾油器で搾り出すと、「うわぁ、いい匂い」や「なんか香ばしい」と歓声をあげていました。

今後、瓜生小学校では菜種油などを使って、天ぷらの試食会や石けんづくりを予定しています。

▲搾油器で菜種油を搾り出す児童

▲講演する松木教授

聴いて育てる大切さ（6/21）

子育て講演会がパレア若狭で行われ、保育や教育関係者ら約200人が参加しました。

講演会は、福井大学大学院の松木健一教授を講師に「家庭の子育てから保育所の保育へ、そして学校教育へ」と題した講演が行われました。

松木教授は、「人の過去は変えられないが、身近でちゃんと話しを聞いてあげて、事実を一つひとつ選び直すことで、その人の物語を変えることができる」と話し、家庭から保育所、教育へと進む課程で、子どもたちの物語をちゃんとつなぎ合わせていく大切さを訴えていました。

自然再生への取り組み（6/23）

▲パネルディスカッションで意見を交わすパネラー

第3回自然再生学会全国大会および自然再生推進若狭町大会がパレア若狭で行われました。

この大会は、若狭町に何度も飛来したコウノトリをテーマとして、自然再生について考えるものです。

大会には町内外から約200人が来場し、町内の小学校や各種団体から自然再生の取り組みが発表されました。

コウノトリやホタルの生態について発表した鳥羽小学校6年の児童は、「おじいちゃんたちが見た景色を見てみたい」と、自然再生と保護を訴え、また鯖（はす）川の生き物について発表したみそみ小学校6年の児童は、「今回の観察で環境について興味をもった。今後は、幻の魚となっているハスを探しながら研究していく」と抱負を語りました。

その後、パネルディスカッションも行われ、パネラーたちは「地域の人みんなが自然再生について理解し、協力しないといけない」と意見を交わしました。

▶若狭町に何度も飛来しているコウノトリの「えっちゃん」

▲写真や他市町の取り組みが展示されたギャラリー

▲実物大の工作でコウノトリを説明する鳥羽小学校の児童

▲取り組みを発表するみそみ小学校の児童

幻想的な夏の灯り（6/23）

◀ビオトープ周辺を飛び交うホタルの光

▶街道を彩る灯ろう

「ホタル観賞と陶の灯りの夕べ」が熊川公民館で行われました。

この取り組みは、熊川宿ほたる生息研究会と熊川公民館が開いたもので、平成19年に同会が発足してから熊川宿にあるビオトープで育てたホタルの幼虫が成長し、地域活性化を目的に昨年から行われているものです。

また、熊川宿の下ノ町の道沿いには、陶器の灯ろうも設置され、乱舞するホタルと手作りの灯ろうの優しい灯りが醸し出す幻想的な雰囲気の中、町内外から訪れた約300人が夏のひとときを楽しみました。

旬の福井梅はいかが？（6/23-24）

▲青梅を買い求める来場者

青梅まつりがＪＡ敦賀美方梅の里会館で行われました。

このまつりは、町の特産である福井梅の収穫シーズンに合わせて開催されており、観光で訪れたお客らは「大きい梅ね。それにいい香り」と、甘く香る収穫されたばかりの青梅を購入していました。

また、美方高校の食物科の生徒らが梅の実と梅酒で作った梅マドレーヌは、販売後あっという間に完売しました。ほかにも、若狭湾の干物や特産品の販売が行われたほか、梅干しと焼き鯖、そしてひじきを合わせた新商品のふりかけを使ったおにぎりが振る舞われるなど、会場は多くの人で賑わいました。

一刀集中（6/24）

福井県剣道連盟が主催する福井県知事杯・第９回福井県剣道選手権大会が三方体育館で行われました。

同選手権大会が若狭町で開催されたのは初めてで、三方地区剣道連盟が主管となって大会を運営しました。

大会には、県内の剣道連盟や団体から選出された男女 65 人の剣士が出場し、各試合で一刀一刀に気合いの入った熱戦が繰り広げられました。

結果は、男子の部では鈴木秀典さん（警察選出選手）が２連覇し、女子の部でも山田聖子さん（越前地区選出選手）が３連覇を果たしました。

優勝者は、県代表として全日本剣道選手権大会へ出場します。

▲熱戦を繰り広げる選手

おいしいジュースにな～れ（6/25）

▲梅ジュースづくりを体験する児童

若狭町梅加工体験施設で、梅ジュースづくりが行われました。

同施設は、木造平屋造りで、梅ジュースなどの加工体験ができる施設となっており、今年３月に完成したものです。

この日、施設が完成して初の体験教室が行われ、梅の里小学校と岬小学校の児童 23 人が梅ジュースづくりに挑戦しました。

児童らは、福井梅の剣先という品種に竹串を刺してエキスが出やすいようにし、梅と砂糖を交互に容器に詰めていき、約１か月後に出来上がるジュースを楽しみにしていました。

▶ミディトマトを収穫する児童

いっぱい！でっかい！おいしい！（6/29）

野木小学校の1年生から3年生の児童32人がミディトマトの収穫を体験しました。

体験は、県嶺南振興局農業経営支援部などが、自分たちで収穫して採れたての味を知ってもらおうと企画したもので、北川博司さん（小浜市）が管理している中野木の栽培ハウスで行われました。

児童らは、真っ赤に熟した華小町という品種のミディトマトを収穫し、採れたての美味しさを味わいました。

今までトマトが苦手だった2年生の北村侑希乃さん（下野木）と荷川取可梨さん（堤）は、「とてもおいしかった。すごく甘い」と、口を大きく開けてミディトマトをほお張っていました。

若狭の特産を知ろう（6/30）

地元の食材を使った特産料理食育講習会が中央公民館で行われました。

講習会は、三方公民館と町特産振興販売室が主催したもので、町内の親子ら17人が参加しました。

講師には、青池調理師専門学校の松坂隆寛さんを迎え、梅干しと黒豆の健康赤飯や、そら豆の葛寄席、地魚を使ったアクアパッツァなど5品を調理しました。

調理後は、自分たちで作った料理を参加者全員で試食し、出来栄えと味に満足していました。

参加者は、「楽しく料理ができ、また新しいメニューを覚えられて良かった。年に何度か開いて欲しい」と話していました。

▲松坂講師から調理方法を習う参加者

▲魚道が設置された田んぼを視察する参加者

魚を育てる田んぼのチカラ（7/1）

第1回みんなの三方五湖調査が、若狭三方縄文博物館で行われました。

調査には、自然再生協議会の会長を務める東京大学の鷲谷いずみ教授をはじめ、協議会のメンバーら約40人が参加しました。

調査では、春先に設置したコイやフナの卵が水田でふ化して、育った魚の育ち具合を現地で調べました。

メンバーらは、成長した魚と水田や魚道の様子を確認し、自然再生に向けた意見を交わしました。

今後は、成長した魚を湖へ返す取り組みが予定されています。